

氏名：舟木耕太（福山市立神辺中学校）

現地勤務先：イニヤミッサ中等学校

カニマンボ Canimambo

モザンビークからの便り



Boa tarde！（こんにちは！）モザンビークは気温も上がり、これから暑い日が続きそうです。

「原爆展 あなたにとって平和とは何ですか？」～平和について考える8月に～

8月15日に原爆展を開催しました。当日は生徒だけでなく、同僚、保護者や友人、そして日本人の仲間と平和について考えました。このイベントを通して、国籍を超えた、仲間の存在の大きさも感じました。



ポルトガル語の原爆資料ポスターもあります。色々な言葉で翻訳されていることのがたさを感じました。生徒も、真剣にポスターを見て質問用紙に答えています。



参加者には、「あなたにとって平和とは何？」という問いに対する答えを寄せ書きしてもらいました。みんなの想いや考え方を共有できたかと思います。

折り鶴は、思ったよりも難しく、日本人の仲間が講師として大活躍！原爆展が終わった後も、私の帰国までに鶴を千羽折りたい！と同僚や生徒が言ってくれています。



ポルトガル語での説明は緊張もしましたが、想いを込めて行ないました。参加者は真剣に話を聞いてくれました。当日は約70人の参加者がいました。



この1日を通して、**教師として、教科を超えて大切にしたいこと**を考えさせられました。数学の学力もですが、まずは生徒が「**たくさんの人と、よりよい未来を築く力をつけていけるように**」なってほしい。そのためのサポートがしたい！残りの半年、自分の中でこんなテーマを持って過ごしていきたいです。



意識して伝えていること…全員が参加者、授業はみんなで作っていくもの

先生からの一方的な指示で授業を受けていても、学べることは限られてしまいます。全員に、授業に参加する資格がある。「質問して良い、分からないって言って良い、提案をして良い、みんなで対話をしながら授業をつくっていきこう。」授業中にはこうした投げかけを頻繁にしています。

全員が静かになるまで、顔を上げるまで待つ。

「みんなが授業に参加している一員だよ！」

休んだ人がいたら、ほっておかない。

「彼女に何があったか知っていますか？」

分からないという声が上がったら、みんなで考えてみる。

「誰か、今の質問に対して答えられる人はいる？」

しかし、こうした取り組みは、なかなか理解してもらえない気もします。「私は分かったから先に進もう。」「うるさい生徒は追い出して、早く始めよう。」といった声を聞くこともあります。本当にそれで良いのでしょうか？

私は、「全員が参加者」という感覚を持つことが大切ではないかと思います。みんなが参加するためにどういう工夫が出来るだろうか？それぞれ、違うものを抱えている。だからそれぞれが、参加の仕方は選べば良いと思います。でも少なくとも、全員が参加者であるということは忘れてはいけないと考えます。

未来のモザンビークの先生達と関わる日々が始まる

9月から4人の教育実習生を受け持つことになりました。これまで同僚に対して、自分の考え方を「押し付けたくないから」と、ついつい遠慮していた自分。教育実習生の指導教官という立場に立つことで、積極的に日本のやり方を紹介したり、自分の意見を伝えたりできるようになりました。この変化を、同僚に対しての関わりにも活かしていきたいと思っています。



授業準備、反省会、一緒に学んでいます！

外国人の自分にできる努力…学校だけに閉じこもらずに！

この国で活動しながら決定的に感じるの、自分が外国人で、彼らよりもこの国について知らないことだらけだということ。学校の外に広がる、素敵な文化、自然、人々との出会いも大切にしたいと思っています。

生徒の家庭訪問もしています。



休日にフェスタに招かれることも！みんなフェスタが大好き。食べて踊って、楽しめます。

旅行編。間近でこんな生物を見ることも！モザンビークの海にも行きました。

